

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079400380
法人名	有限会社 YOU
事業所名	グループホーム 悠友
所在地	福岡県田川郡福智町神崎1098番地195 電話 0947-22-7888

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成22年1月23日	評価確定日	平成22年2月5日

【情報提供項目より】(平成 22 年 1 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日				
ユニット数	2	利用定員数計	18 人		
職員数	19 人	常勤	11 人, 非常勤	8 人, 常勤換算	11.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての 1階 ~ 階部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,500 円	その他の経費(月額)	9,500 円	水道光熱費	
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無		
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
1日 1,000円					

(4) 利用者の概要(1月 1日現在)

登録人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	6	要介護2	5		
要介護3	4	要介護4	2		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 87 歳	最低	76 歳	最高	103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇都宮医院 アイ歯科 福智歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木造平屋造りの2ユニットのグループホーム悠友は、自然豊かな山里の造成地に位置し、雄大な福智山の四季折々の姿を眺めながら、ゆったりとした暮らしを支援している。昨年8月に施設長が兼務していた管理者を各ユニット毎に配置し、ホーム理念である「明るく楽しく末長くともにいきいき過ごしましょう」を日々のケアで実践している。町の文化連盟に加入し、昨秋の出品は乳酸飲料の容器で入居者と職員が合同で神輿を制作しているが、時間がかかっても入居者・職員共に達成感が持てるように取り組んでいる。神輿は玄関に展示され、訪問者の眼を楽しませている。スプリンクラーの設置でより安全安心で快適な生活を提供したり、ホームでの看取りの経験や訪問看護との連携で重度化や終末期の方針に沿ったケアが展開されつつある。自治会に加入し、春・秋のお祭りでは、子供山笠がホームの玄関に巡航したり、地域の方から介護に関する様々な相談が寄せられたり、ホーム退去者が出た時には運営推進会議の委員である地区区長が入居者を紹介する等、地域からの入居が増えているのは、地域との関わりを大切にしたホーム運営の成果である。そして、行政との連携でグループホーム連絡会が発足し、毎月の勉強会で情報交換や交流を深め、合同の連絡網を作成している。今後、ますます、介護保険制度や認知症について地域への情報提供の場として期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価に基づき、改善シートを作成し、改善に取り組んでいる。昨年8月に家族会が発足し、重度化や終末期に関する指針を作成し、今年度は緊急連絡網を活用して、夜間の緊急招集訓練を実施している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、職員全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議実施要領を整備し、適切なメンバーで2カ月毎に開催し、会議録が作成されている。会議ではユニット間の管理者の交代やスプリンクラー設置、行事の紹介、外部評価の報告をしている。参加者からインフルエンザ等の感染症情報や対応について意見が出され、認知症対応について意見交換があり、認知症に対する理解が深まっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	昨年8月、家族の参加が多い夏祭りの際に家族同士の交流やホームへの意見を表出する場として家族会が発足している。毎月発行している「悠友だより」で入居者の日々の暮らしぶりや入居者の笑顔の写真を掲載し、ホームの行事等を報告している。入居者の状態の変化や医療機関受診結果はその都度家族に報告している。個別金銭出納帳は整備され、収支報告をホーム便りと共に家族に送付している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、春・秋のお祭りでは、子供山笠がホームの玄関に巡航し、入居者と記念撮影している。ホームの餅つき大会には地域老人会に呼びかけたり、地域保育園児の生活発表会を兼ねたクリスマス会などの交流は入居者の楽しみになっている。地域在住の職員も多く、野菜の差し入れや来訪があり、地域の人たちと交流している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規程、契約書、重要事項説明書に「地域との連携の下、家庭的な環境の下で」と地域密着型サービスの方針を明記している。設立時の理念である「ともに生き生き」をより具体的に誰でもわかりやすくを念頭にして職員で話し合い、「明るく楽しく末長くともにいきいき過ごしましょう」に変更している。理念は入居者、職員が共に過ごす居間に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、入居者と職員で理念を唱和し、中には理念を暗記して大きな声で唱和している入居者もいる。職員は理念の実践を心掛け、入居者を見守り、ゆったりした時間と入居者を孤立させないように心を配っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、春・秋のお祭りでは、子供山笠がホームの玄関に巡航し、入居者と記念撮影している。ホームの餅つき大会には地域老人会に呼びかけたり、地域保育園児の生活発表会を兼ねたクリスマス会などの交流は入居者の楽しみになっている。地域在住の職員も多く、野菜の差し入れや来訪があり、地域の人たちとの交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、職員全員で自己評価に取り組んでいる。前回の外部評価に基づき、改善シートを作成し、改善に取り組んでいる。家族会が発足し、重度化や終末期に関する指針を作成している。緊急連絡網を使用して夜間の緊急招集訓練を実施している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施要領を整備し、適切なメンバーで2カ月毎に開催し、会議録が作成されている。会議ではユニット間の管理者の交代やスプリンクラーの設置、行事の紹介、外部評価の報告をしている。参加者からインフルエンザ等の感染症情報や対応について意見が出され、認知症対応について意見交換があり、認知症に対する理解が深まっている。	○	より実りある会議を運営するために、実施要領に守秘義務や個人情報の取り扱いについて明記し、委員の了解を得ていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の方から寄せられた介護保険に関する相談を行政に繋げている。町との連携で発足した福智町グループホーム連絡会では毎月の勉強会や、他のグループホームとの交流が活発になり、町全体で同業者との質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	ホーム内で地域福祉権利擁護事業・成年後見制度についての研修に取り組んでいる。パンフレットを整備し、入居申し込み時には制度の説明をしている。入居者の中で制度の利用者はいないが、地域の方の相談を社会福祉協議会につなげた事例がある。		
4. 理念を实践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している「悠友だより」で入居者の日々の暮らしぶりや入居者の笑顔の写真を掲載し、ホームの行事等を報告している。入居者の状態の変化や医療機関受診結果はその都度家族に報告している。個別金銭出納帳は整備され、収支報告をホーム便りと共に家族に送付している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年8月、家族の参加が多い夏祭りの際に家族同士の交流やホームへの意見を表出する場として家族会が発足した。ホームの廊下にご意見箱を設置している。家族の訪問時には意向を聞くよう配慮し、月1回の職員会議で運営改善に取り組んでいる。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表者や施設長は認知症の特性を理解し、入居者と職員の馴染みの関係づくりに配慮している。離職を最小限に抑えるため、勤務時間の調整や希望があれば常勤から非常勤へ変更したり、土曜日の夜勤のみ勤務している職員もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員の募集・採用はハローワークを通じて行っているが、認知症高齢者に理解があり、高齢者を敬う気持ちがあれば性別、年齢に制限は無い。服務規程・就業規則が整備され、雇用契約書を取り交わしている。職員の定期健康診断を実施している。資格取得を支援するために勤務体制に配慮したり、昼食後交代で休憩が取れる休憩室を整備するなど、職員の気分転換やストレスの緩和が考慮されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	管理者は町主催の人権学習会や講演会を職員に周知し、年1回は自主参加を義務付けている。身体拘束防止マニュアル、高齢者虐待防止マニュアルを整備し、職員会議の中で研修を行っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画・新任研修計画書を作成し、段階的に研修を受講できる体制を取っている。平成22年度から常勤職員は年3回の自主研修を義務として虐待防止等の介護サービス改善を目指している。研修案内書を掲示し、職員の希望や勤務調整への配慮がなされている。受講後は職員会議で内容を伝達し全職員で共有している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福智町グループホーム連絡会・田川地区グループホーム連絡会に加入し、毎月、情報交換や勉強会を開催している。他のグループホームのそうめん流しに招待されるなど、今後も合同の行事の開催を計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	21年度は2名の方が、7日～10日の体験入居をしている。ホームの生活に馴染みながら、本人、家族から情報を丁寧に聞き取り、経過を見ながら入居に至った。本人の表情の変化が、家族の安心に繋がった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者との日々の生活、会話の中から、得意なことやしたいことを知るように心がけている。一緒に家事をしながら干し柿の作り方、豆のすじとり、野菜の育て方など学んだり、帰り際の入居者の「ありがとうね」の言葉かけがうれしく、共に生活していることを実感している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や職歴を把握している。日々の会話や表情、動作から本人の思いや意向を把握し、介護日誌に書き留め、介護計画に反映させるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回全職員が参加するミーティングで業務日誌や介護記録を参考にし、お互いの気付きやを出し合い意見交換している。家族の意向は訪問時や電話での聞き取りで介護計画へ反映させている。作成された介護計画は入居者、家族に説明し、署名捺印を整備している。	○	アセスメントで得た情報や気づきを反映した達成可能な具体的な援助目標とサービス内容の提供をお願いしたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月毎に介護計画の見直しを行っている。職員伝達ノートがあり、心身の状況に変化があった場合は随時、家族、医師、看護師等と相談し、見直しを行っている。見直した介護計画は本人、家族に説明すると共に、伝達ノートや申し送りで職員全員で共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて、かかりつけ医や協力医療機関の受診を支援したり、「食事の用意に帰りたい」「自宅の草むしり、風通しをしたい」等の入居者の希望に沿って、入居者の自宅に送迎する等柔軟に対応し、安心して生活してもらえるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医受診の送迎、付き添いを行い、入居者の心身の状況、訪問看護記録を持参し情報を提供している。受診結果や内服薬の変更等を全職員で共有し、状況に応じて随時かかりつけ医や家族へ報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に入居者が重度化した場合の「看取りに関する指針」を明記して、入居時に本人や家族に説明している。今年度より、週1回の訪問看護の活用で24時間医療連携契約を結んでいる。この1年間でホームでの看取りを経験し、終末期の介護について再検討をしている。	○	看取りの経験を活かし、意向確認書を作成し、状況の変化がある毎に入居者、家族の意向を確認しながら、安心と納得の支援を提供されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に関する規程や利用目的を各ユニットに掲示し、契約時に本人・家族に配布している。職員は採用時に守秘義務を謳った誓約書を交わし、プライバシーの保護や人権について職員会議で学習している。入居者の尊厳に配慮してやさしくゆったりとした声かけや対応をしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や生活のペースに合わせて起床時間や食事を支援している。食後は居室で過ごす入居者や、リビングのお気に入りの場所でみんなと過ごす入居者等、思い思いにその日を過ごしていただけるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好き嫌いを把握し献立を工夫しているので、「今日は何が出るか楽しみ」と期待している入居者もいる。調理の下ごしらえやおしぼりの配布、後片付けなど入居者の出来ることは職員と一緒に、職員も同じテーブルを囲み、さりげなく介助しながら同じ食事をしている。ビール、養命酒、清涼飲料水等は預かり、希望があるときに提供している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回、2グループに分けて午前中から好きな時間に入れるよう支援している。脱衣室にも暖房があり、入居者同士声を掛け合い入浴することもある。入浴拒否のある場合は、仲良しの入居者との入浴を勧めたりしている。月2回は地域の温泉センターに出かけ、ゆっくり入浴を楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	若いころからの畑仕事や趣味の山登りなど日常の会話や動作から一人ひとりの楽しみ事を把握するように努めている。干し柿作りの皮むきを見事にされる方、洋裁が好きな方、歩くことが好きな方等毎日の生活の中に、楽しみや気晴らしの要素を取り入れている。文化祭の出品の制作では時間がかかっても入居者、職員共に達成感が持てるように取り組んでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節毎の行事計画で初詣やお花見などに出かけている。月2回の温泉センターでの入浴は開設当初から続いている。移動が安全な大型スーパーへの買い物は楽しみとなっている。日頃は、見晴らしの良い高台にあるホーム周辺の散歩で季節感を感じてもらえるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムを設置し、日中は鍵を掛けないケアを実践している。ホーム開設時に警察に協力をお願いしている。共有空間や事務室から各ユニットの廊下や玄関が見渡せ、外出傾向のある入居者は、見守りや声かけで対応している。福智町グループホーム連絡会が合同で連絡網を作成している。	○	行政から入居者の行方不明になった時に備え、顔写真付きのチラシを作る提案がなされているので、運営推進会議に提案し、入居者や家族の了解を得て、作成されることを期待します。また、近隣の方への協力依頼もお願いします。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルや緊急連絡網を整備して、避難経路図を掲示している。年2回地域消防団の指導、協力で避難訓練を実施している。21年度は職員の緊急連絡網を使い、夜間の緊急招集訓練を実施している。飲料水とレトルト食品の備蓄がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が献立を考え、毎日食材を買い出しに出かけ、新鮮な食材で、切り方や煮方で食べ残しの無いよう工夫している。1日1400～1500Kcalの食事を提供している。水分は1000cc以上を目標に摂取を支援している。350ccのお茶をペットボトルに用意して、入居者の居室に1本ずつ配り、夜間のトイレ誘導の際に水分摂取がスムーズにいくように工夫している。食事量・水分量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの玄関には乳酸飲料の容器で入居者と職員が合同で制作し、文化祭に出品した神輿が展示されている。リビング、台所、食堂が一体となった日当たりのよいリビングで、座り心地の良い椅子に座って、水の流れる音や、食事のできる匂いを感じながら、一日の大半を過ごす入居者が多い。廊下には入居者の手作りの作品や季節感のある飾りつけ、記念の写真が掲示され、福智山を眺めたり、おしゃべりが出来るよう長椅子が用意されている。共有部分は床暖房を取り入れ安心安全な環境を整備している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入口には顔写真と表札が飾られている。掃き出しのサッシ窓から日が差し込み、明るく解放感のある居室は、ホーム備え付けのベッドと洗面台、クローゼットが設置され、自宅で使用していたタンスや仏壇など馴染みの家具を持ち込み、お孫さんの絵や好きな小物に囲まれ、安心して暮らせるよう配慮されている。		